

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
アルコール依存症の早期介入から回復支援に至る
切れ目のない支援体制整備のための研究（20GC1015）

令和3年度分担研究報告書

「受診後の患者支援に係るモデル事業」の事業報告等を用いた、SBIRTSの取組状況分析
研究分担者 吉本尚 筑波大学・医学医療系・准教授

研究要旨

アルコール依存症等を持つ方への早期介入（多量飲酒者を含む）から回復支援に至る効果的な対策には、切れ目のない支援体制の整備が必要である。医療の枠組みの中では、SBIRTS（Screening, Brief Intervention, Referral to Treatment and Self-help group）が重要とされる。今年度は、SBIRTSの取組状況の一環として、一般医療機関の「アルコール低減外来」における診療実態に関して調査を行った。無床診療所で、精神科医および他の精神科スタッフの所属が所属していない北茨城市民病院附属家庭医療センターに設置されたアルコール低減外来では、2年強の間に70名が受診し、ほとんどの患者が依存症と診断され、かつ、アルコールの治療が初めてと回答した。75%以上の患者が治療を継続していた。入院紹介が7%あったが、外来治療紹介はなかった。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

吉本 尚・筑波大学 医学医療系 准教授

A. 研究目的

茨城県にある無床診療所である北茨城市民病院附属家庭医療センターに内科領域で初めて設置したアルコール低減外来の効果について検証する。

B. 研究方法

2019年1月から2021年3月までに受診した患者を対象とした。初回診察情報として、1) 年齢、2) 性別、3) 1日飲酒量、4) 週飲酒日数、5) AUDIT、6) ICD-10を用いたアルコール依存症の有無、7) 飲酒量低減や断酒といった過去の医療機関でのアルコール治療歴、8) 専門医療機関受診歴について収集した。効果判定は断酒、飲酒量低減、変化なし・悪化とし、治療中断率、紹介率（外来紹介、入院紹介）を求めた。

（倫理面への配慮）

北茨城市民病院の倫理委員会の承認を得た。

C. 研究結果

70人が期間内に受診し、平均年齢 57.4 (SD 13.6) 歳、27 歳～79 歳の範囲であった。女性は 16 人 (22.9%)。1 日飲酒量の平均は純アルコール 135.2 (SD 88.9) g、週平均飲酒回数は 6.79 (SD 0.99) 回であった。AUDIT の得点は 23.0 (SD 6.8) 点で、68

人 (97.1%) がアルコール依存症と診断された。ほとんどの患者はこれまでアルコールの治療を受けたことがなく、専門医療機関受診歴もなかった。断酒者 14 人 (20.0%)、飲酒量低減 26 人 (37.1%)、変化なし・悪化 5 人 (7.1%) であった。治療中断者は 16 人 (22.9%) で、そのうち 5 人 (7.1%) はその後かかりつけで断酒・飲酒量低減を行っていることが電子カルテ上で確認できた。アルコール低減外来での治療を患者・医師の合意の元終了したのは 9 人 (12.9%) であった。入院治療が必要な 5 人 (7.1%) を専門医療機関に紹介したが、外来治療対応可能な方に関しては、遠方のため受診継続困難であった患者以外は一例も紹介しなかった。

D. 考察

ほとんどの受診者はアルコール依存症と診断された。専門医療機関受診歴がほとんどないことから、内科領域に本外来が設置されることで受診の抵抗感が低下したことが示唆される。半数以上が飲酒量低減もしくは断酒に至り、治療中断率も比較的 low、入院以外の専門医療機関への紹介はなかった。内科領域でのアルコール低減外来の設置は、治療ギャップを埋めるために効果的な「治療窓口」として機能する可能性がある。

また、「アルコール低減」と標榜しているにも関わらず、20%は断酒に至った。飲酒量低減を望む方が断酒に至っただけでなく、アルコール相

談・治療窓口として認識されているかもしれない。

限界として、単一施設、単一医師による外来設置効果であることが挙げられる。複数医師、複数箇所の設置による結果の一般化および長期的な予後に関する研究が望まれる。

E. 結論

日本の内科領域で初めて設置したアルコール低減外来の効果について検証した。治療ギャップを埋める意味でも、受診ハードルを下げる意味でも効果的であることが示唆された。複数箇所の設置による結果の一般化および長期的な予後に関する研究と、当該外来を担える、主に内科領域の人材育成が望まれる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

吉本尚, 斎藤剛, 大脇由紀子. プライマリケア等におけるアルコール低減外来の展開とナルメフェン使用経験. 第 56 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会. 三重県. 2021 年 12 月

吉本尚, 斎藤剛, 大脇由紀子. 内科領域でのアルコール低減外来の設置効果. 第 43 回日本アルコール関連問題学会. 三重県. 2021 年 12 月

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし